



ワークショップ まちおこしの現場から明日を考える - 若手・中堅研究者の提言 -

日時：2017年5月13日（土） 14:00～17:30

会場：日本学術会議講堂 東京都港区六本木7丁目22番地34号

主催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会 地方創生のための国土・まちづくり分科会

参加費：無料 定員：100名

* 講堂（扇型）の前方5列に着席下さい。会場の皆様も議論にご参加下さい。

開催趣旨

地域格差が広がり、人口減少が続くなかで、地方創生がわが国の重要な課題となっている。観光資源や地域資源を活かしたまちおこし、自然環境と調和したまちおこし、子育て・高齢化・健康に配慮したまちづくり、既存施設の再活用、コンパクト化による拠点づくり、都市農村交流、海外交流をはじめ、様々な取り組みが各地で行われている。

本ワークショップでは、まちおこしに取り組む若手・中堅研究者に、現場の取り組み、課題、提案を発表していただく。地方創生のためには、地方の主体的な取り組みを支援するとともに、様々な分野の交流により、鍵となるコンセプトを見出す必要がある。発表をもとに、会場の一般参加者や当分科会の委員とともに、将来の方向について議論したい。

プログラム

14:00-14:10

司会：山本佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学准教授）
開会挨拶：小松利光（日本学術会議会員、土木工学・建築学委員会副委員長）
来賓挨拶：佐々木 基（内閣府 地方創生推進事務局長）
趣旨説明：米田雅子（日本学術会議会員、地方創生のための国土・まちづくり分科会委員長）

14:10-15:30

WS1「まちおこしの現場から明日を考える」（発表各20分、自由討議40分）
コーディネータ 園田 真理子（日本学術会議連携会員、明治大学教授）
発表1：辺境におけるまちおこしの現場から
徳田光弘（九州工業大学大学院工学研究院准教授）
発表2：水・食料・エネルギーの自給循環と環境収容力
笠松浩樹（愛媛大学社会共創学部特任講師）

自由討議（40分間）

パネラー 徳田光弘（前掲）
パネラー 笠松浩樹（前掲）
パネラー 戸所 隆（日本学術会議連携会員、高崎経済大学名誉教授）
パネラー 小澤紀美子（日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授）

15:30-15:45 休憩

15:45-17:25

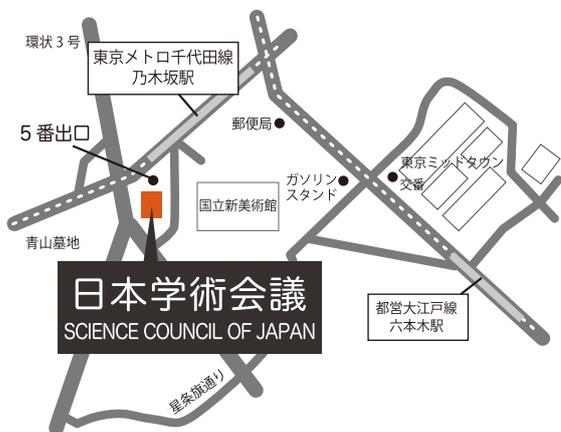
WS2「まちづくりの現場から明日を考える」（発表各20分、自由討議40分）
コーディネータ 林 良嗣（日本学術会議連携会員、中部大学教授）
発表3：橋と景観とまちづくり
久保田善明（富山大学理工学部教授）
発表4：地域公共交通の活性化が地域の活性化を促すために
加藤博和（名古屋大学環境学研究所教授）
発表5：地域自律型の次世代型・水インフラシステム
牛島 健（北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所主査）

自由討議（40分間）

パネラー 久保田善明（前掲）
パネラー 加藤博和（前掲）
パネラー 牛島 健（前掲）
パネラー 嘉門雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）
パネラー 船水尚行（日本学術会議連携会員、北海道大学教授）

17:25-17:30

閉会の言葉：浅見泰司（日本学術会議連携会員、地方創生のための国土・まちづくり分科会副委員長）



当日の資料：<http://www.yoneda-masako.com/20170513book.pdf> に掲載

申し込み方法：<https://ws.formzu.net/fgen/S58173127/> よりお申し込みください。